

学校法人東放学園
東放学園音響専門学校 殿

東放学園音響専門学校
学校関係者評価委員会

2021(令和3)年度 学校関係者評価委員会報告書

1. 学校関係者評価委員

〔学校運営に関する有識者〕(委員長)

佐久間 義彦	学校法人東放学園 元理事 東放学園専門学校、東放学園音響専門学校、元校長 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 顧問 一般社団法人 全国放送派遣協会 顧問 前専務理事
--------	---

〔就職先の企業および業界関係者〕

松井 繁明	株式会社 IMAGICA Lab. 経営管理本部 渉外担当部長 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 理事
-------	---

〔高校の教員〕

寺島 淳一郎	学校法人 守屋育英学園 関東第一高等学校 進路指導部長
--------	-----------------------------

〔卒業生〕

橋本 亜希子	株式会社 ビーイング 宣伝本部 チーフプロモーター 〈音響技術科 卒業〉
--------	---

2. 事務局

〔学校教職員〕

酒井 努	東放学園音響専門学校 校長
和田 一夫	同 教務教育部 部長
青柳 高広	同 学務管理部 部長(事務局)
阿部 純也	同 音響技術科 学科主任
佐野 僚	同 音響芸術科 学科主任
久村 英一	同 学務管理部(事務局補佐)

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

①2021 年 11 月 24 日(水)18:30～19:30 東放学園音響専門学校 清水橋校舎 2 階 2S1 教室

①2022 年 1 月 14 日(金)16:00～18:00 東放学園音響専門学校 Zoom を使用したオンライン開催

4. 学校関係者評価結果

評価基準

4	適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
3	ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
2	対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
1	全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

「2020 年度 東放学園音響専門学校 自己評価報告書」に基づき審議、検討し、以下の通り報告する。

I. 重点目標について

【組織力強化・向上】	
コメント	評価
・組織力強化には、より女性の活用を進めたほうが良いのではないかと。 ・教職員と学生の距離感は近いが、より WITH コロナの中における学校対応骨子も明確化し、学生にも十分に理解させかつ、それを外部にもアピール出来ればより良い。 ・「教職員に対しての担当する業務に関わる研修への参加を推奨する」とあるが、①誰が、②いつ、③どの様に、④それによる成果、等のロードマップを明確化し、生徒だけでなく先生の日々向上といった部分からもアプローチする事で、より強固な組織力組成のブランディングを打ち出せると思う。 ・コミュニケーションは大事だと思う。私が学生の頃は和田先生とよく話していた記憶がある。その時に仕事の話やプライベートの話も含めて話す機会が多かった為、社会人になった後も目上の人とのコミュニケーションを自分から取っていったと思う。 ・WITH コロナの部分に関して、学校としてキャッチーなものを対外的に PR していくことは、保護者、学生に対しても良いのではないだろうか。 ・教職員の研修や知識力アップは必要ではあるが、これを表に出している学校はあまりないような気がする。例えば音響校における学生を迎えるための取り組みといったものを、更に見える化して行くと良いのではないだろうか。	4

【カリキュラム再構築(3 年)とアクティブラーニング化】	
コメント	評価
・コロナ禍で、よりひろくなるべきカリキュラムの多様化を感じた。今後の良いヒントではないだろうか。 ・弊社で実施している、「IMAGICA Lab.MA 技術ゼミ」の様な、業界の実際の会社がアプローチする科目をより増やし、学校の授業(リモート／対面)、そして社内での外部講師授業、社外での外部授業(見学)の 4 本柱で、カリキュラムをアピールしたらどうか。特にリモート授業と対面授業の区別をカリキュラム開示の際に学生に見せられれば、コロナ渦の中でのイメージが掴みやすい。 ・WITH コロナ時代では、ロケ(ブーマー)／収録(音声)の重要性アップ、それと MA／ミキシングの作業が非常に増加してきており、そこを目標としてのカリキュラム作成をしたらどうか。ポストプロダクションや制作現場においては、MA(音声)の人生における働ける(輝ける)期間は編集より圧倒的に長いので、そこをアピールしたらどうだろうか。 ・アフターコロナを意識した社会環境の変化に対応できるカリキュラム作りが早急に必要だと思われ	4

る(オンライン授業やリモートワークなど)。働き方の変化があるので、そのメリットを活かせるような、現場からのアイデアが求められているのではないだろうか。アクティブラーニングに関しては、実習を通じて自然と能動的な学びになっているので、それほど意識しなくても良いかと個人的に思う。ただしコミュニケーションスキルを上げるために、より自発や協力などの手法を取り入れた授業展開をすれば良いのではないだろうか。 ・オンラインが進んだことにより、リアルで会う事の大事さを最近重要視しているのかなと思う。雑誌や WEB 取材等も Zoom 等で行っていたが、最近は対面で行っている。個人的に学生時代に学びたかった授業は動画編集と写真修正技術である。ケーブル巻きはたまに役に立っている。 ・WITH コロナは今後しばらく続くと思われるので、その中でリモートだけではなく、業界の現場というものをどのようにして見て行くのか、企業としては見せて行くのかということ。貴校が保有している機材は、企業側からみても遜色のないものを保有しているが、断片的な作業だけでは分かりづらい。今後はリモート部分、対面部分において何かメリハリをつけて行くことが望ましい。また予め WITH コロナを想定したカリキュラムというものを学生・保護者に対して示すことが出来れば学校の魅力を発信出来るのではないだろうか。 ・小学校においてはアクティブラーニングの授業手法が当たり前であるが、中学に入学するとだんだんとしぼんで行く状況であり、現場サイドの教員もなかなか手をつけられない状況の為、急ぐことなく出来る部分から徐々にやって行き、浸透させて行くという形がスムーズに導入出来るポイントであると思う。	
--	--

【資格・検定の取得強化】	
コメント	評価
・グループ校でも自由に取得できるオープンなものにしてはどうだろうか。 ・JPPA「映像音響処理技術者資格認定制度」や、JAPRS「サウンドレコーディング技術認定試験」等を取得する意味と、メリットの享受を今一度、学生に分かりやすく啓発されたらどうか。特に JPPA の認定制度は、ポストプロダクション業界の中では、思った以上に有効な認定証としての取り扱いとなっており、各会社の採用基準項目として重宝されている。 ・業務を行う上で本当に必要なものを取捨選択し、学校が提示することができているのか学科ごとに検証したほうが良いと思う。音響の学生に色彩や秘書検定は関係ないように思える。「STUDENT GUIDE」にはただ資格一覧が羅列されているだけなので、カリキュラムマップや目標達成シートに連動させた新たなシート作成ができるのではないだろうか。また資格取得の動機づけとして、表彰、取得者掲示、奨学金など得られたほうが取り組む学生は増えるように思う。 ・特に必要な資格はないと思われるが、先ほどもあった動画編集、写真修正技術、音声編集(コメント編集)が出来ると重宝されると思う。 ・舞台技術機構士の資格は国家試験ということもあって、学生当時、自信にはなったと思う。 ・履歴書も書ける項目がどんどん少なくなって来ている状況の中で、例えば JPPA 資格試験に関しては、学生時代に取得済みの者や入社後に取得する者もいるが、弊社では認定制度の取得がメインエンジニアに上がる要件となっている。 必ずしも取得しなければならない資格ではないものの、例えば学校案内においてこの資格との結びつきのある記載の仕方があっても良いかと思う。 ・事業者が評価するような資格で、採用されている企業にヒアリングすれば、おそらく見えて来るだろう。入社後に本当に生かされる資格というものを重点的に取得させることが肝要である。	4

【「職業実践専門課程」申請準備】	
コメント	評価
・行政の判断は常に遅れるので、時代を先取りした早目の対応が必要である。 ・「職業実践専門課程」の申請準備が整ったとの事で、学校の価値を高める為に、早急に認定を受けて欲しい。認定が下り次第、ホームページでその旨の情報開示すべきである。（学生／入学希望者／保護者は思っている以上に学校のホームページ を見ている） ・職業実践専門課程に認定されたことで学校を選ぶ生徒は少ない。高校現場での評価では浸透していない。学校のピーアールとしてならよいと思うが、すでに多くの学校が取得しているので、効果はあまりないと思われる。	4

II. 評価項目別取組状況について

基準1. 教育理念・目的・人材育成像

コメント	評価
・5ヶ年計画はもはや長期ではない、指針は常に見直し、柔軟に対応すべきである。 ・教育理念を軸として、各学科におけるコンセプトの明確化はされている。WITH コロナにおいては移動におけるリスクや密を避ける為に開催を見送ったとの事。強固な理解を学生が深めていく為には、今まで以上に継続的な学生への理念の啓発が必要と考える。 ・教育課程や授業計画の策定において、より世の中のスピードについていく必要がある。業界では映像と音声の融合が必須である。音響専門学校としてのカリキュラムも勿論だが、映像とのコミュニケーションを深めた教育を合わせて進めていく事で、時代に必要の人材を育てる学校経営を打ち出して欲しい。 ・委員会当日、短い時間であるが学校見学をさせていただいたが「信頼はあいさつから始まる」。ほとんどの学生がしっかりと挨拶をしていた。2週間前に貴校と比較するために他校にお邪魔したが挨拶する生徒は若干名であった。本校(高校)でも挨拶の習慣づけをしているが、いたく共感するところである。これからも積極的に取り組んでいただければと思う。 ・私が学生だった時によく先生から PA 業界の現実を教えていただいたのだが、個人的にはそれが良かったと思う。私が音響技術科だったからだと思うが、学生時代に知らなかった業界の業種があり、音楽業界には様々な職業の選択があることをもっと教えて欲しかったと思う。 ・時代も変わりやすくなって来ていることから、5ヶ年計画はもう長期では無いと思う。ニーズに合わせて計画を前倒しすること、例えばコロナ禍で得た知識を更に取り入れながら、専門学校の利点である時代にマッチしたカリキュラム、そのニーズをどんどん出して行くことが肝要である。専門学校運営は「時代の少し先を読む」くらいがちょうど良い。 ・カリキュラムも細かい部分、コンセプトの明確化もしっかりされていると思う。知識習得だけではなく DX 戦略のような動き、機材を駆使して「1+1=3 または 4」にするようなものが要求されているので、そういった業界のリアルな動きを常時注視して頂きたい。 ・いろいろな学校を訪問させて頂いているが、貴校の学生はかなりしっかりと挨拶をすることが出来る。学校としても当然、理念とか人材像というものは必要ではあるが、やはり学生の視点としての理念に沿ったもの、教える側、教えられる側の理念が合致することが理想である。	4

基準2. 学校運営

コメント	評価
・5ヵ年事業計画に基づき、顧客のニーズ、社会情勢、WITH コロナにおいても可能な限り、柔軟に対応しているとの事なので、その流れをしっかりと継続して欲しい。2019年度からの実施なので、「単年度の振り返り」、並びに「社会情勢を踏まえての都度の微調整」は確実に実行する。 ・評議員、理事の役割というものを今一度見直す時期なのではないだろうか。	4

基準3. 教育活動

コメント	評価
・多岐にわたる教育活動にも充分チェックされているのは良いと思う。学園創設期からあった元気な挨拶の精神は学生・教職員の守るべき伝統である。 ・今後の継続され続けるオンライン授業の実施内容の明確化、並びにその学習成果の見える化が重要である。特に対面／オンライン授業における各々のメリット／デメリットを学生にきちっと認識させた上での実施が、効果の面でも望ましい。 ・時代の流れを組んだカリキュラムの開設、並びにその実施をタイムリーに行って欲しい。 ・せっかく作成した目標達成シートの学生へのフィードバックがないと伺ったが、効果は半減していると思われる。例えばほとんどの学校は学級日誌を記入させていると思うが、私は校内のクラスを見ているが、記入したことに担任がしっかりとコメントをすれば生徒の記載量、そして記入内容が濃くなるのに対して、印鑑を押すのみ、印鑑すら押さない担任のいるクラス日誌は記入がほとんどない。学生は見られているという事に敏感であり、それは大人になっても同じで、上司が見ていればより頑張るのは学生も同じだと思う。毎日難しいにしても、週ごとにコメントを与えるのは絶対に必要だと思う。教員のフィードバックがないのなら止めた方が良くと思う。生徒はほっとらかしにされていると思うのではないだろうか。教員研修については精査しての実施であると良い。 ・特記事項の文章を読んで学校で挨拶をしていたことを思い出した。すごく大事なことだと思う。目標達成シートは私が学生の頃に欲しかった。 ・コロナ禍において対面をすることがベストではないということが分かって来た。どれだけ対面が出来るのかということではなく、対面とリモートを手選別することが肝要である。リモートの場合はどうしても一対複数というケースが多くなりがちであるが、学生数が多い場合は中々難しいかも知れないが、重要なのは一対一で実施することである。 ・通信教育に脱落者が多い理由は、人がいるということに対してのサポートやバックアップが無いことだと考える。ビデオ教育で一番懸念されることは、教える側が一方的に映像を配信し、学生は自己都合でいつでも授業を視聴出来るという感覚になってしまうことである。ライブ授業が完全ではないが、しかしながらその部分は持っていなければならない。	4

基準4. 学修成果

コメント	評価
・初めての就職はキャリアの始まりであるので学生個々人の成長に合わせた柔軟な指導を行って欲しい。 ・テレビやCM業界をターゲットとした就職合同説明会はコロナ渦の中での中止もあるが、弊社グループの㈱IMAGICA デジタルスケープが実施するクリ博は実施されている。その様な説明会をスピーディーに見える化し、学生と企業の接点をより広げる活動を今一度、強化し続けて欲しい。 ・卒業生からの情報収集はタイムリーに実施されている、との事なのでその部分は継続願いたい。 ・コロナ禍において、学科によって募集や就職など苦戦を強いられている学校が多いと聞いている。貴校も同様であるとの事だが、今は辛抱の時だと考え、今こそ研鑽の為の時間と捉え、コロナ後に攻められるよう体制を整えていただければと思う。 ・インターンシップも含め、企業と学校間の情報共有は必要である。 ・学生が安心して就職活動が出来る体制づくりが、就職率の向上に繋がるのではないだろうか。	4

基準5. 学生支援

コメント	評価
・国際化がますます進んでいる。本学の良さを留学生の視点から考え、事情に合わせた対応を行って欲しい。 ・オンライン就職相談方法の確立(特にオンラインにおける社会人としての人間教育の効率的実施)をお願いしたい。 ・コロナ渦の中でオンライン授業の多様化における習熟度遅れの学生との面談、経済的側面での相談、就職に関する不安等、学生の悩みや不安に寄り添うべく、予約制の対面相談の実施等をされたらどうか(オンラインだと本心を伝えられない学生がいるのではないか?) ・留学生に関しては入国禁止の措置がとられている今は、どうしようもないので辛抱の時だと思う。日本では需要が足りているので、海外で事業展開をする企業がますます増える中、思い切って海外で学校運営を検討するのもありなのかもしれない。日本に来られないのなら海外で集める。授業ノウハウをお持ちなので、あとは制度の壁だけなのではないだろうか、検討をお願いしたい。 ・次にSTUDENT GUIDEに掲載されている教員やカウンセラー紹介では講師の資格や出身企業や経歴を掲載することで、学生は関心のある専門的な講師へ相談がしやすくなり「いつでも待っています」の記載につながるのではないだろうか。同時に同好会の紹介はもう少し具体的な事を別紙掲載、もしくは動画紹介したほうが注目を集め、入部希望者が増えると思う。留学生の皆さんへでは本当に理解できているのか甚だ疑問である。こちらが多言語の冊子を用意された方が優しいのではないだろうか。 ・クラブ活動で在学時に友人が多くできたので、積極的に学生に作ってと促してほしい。 他の学科の学生と関わるのはここだけで、今でも友人でいる人はここで会っていた人だけである(先輩も後輩も含めて)。	4

基準6. 教育環境

コメント	評価
・物理的な環境改善は当然必要だが教職員の知恵や工夫でより良い環境を考えてほしい。 ・WITH コロナ時代でもあり、全生徒が同レベルな機材で授業を受けられる事が望ましい。 (利用機材の学校支給／購入補助／格安レンタル／WIFI 環境の提供等) ・昨今、企業ではインターンシップの重要性を認識している。特に映像・音声業界でのその流れが見られる。WITH コロナの中での学校として総力をあげた情報収集とパイプ構築をして欲しい。 ・ICTの活用は未知数である。Google フォームを利用すればアンケートや課題・フィードバックが容易に行えるので、教員間で共有されてはいいかだろうか。本校では各教科で Google 認定試験を取得させ、教員間で共有することで最新のICTに対応できるよう準備している。 ・学外実習は多いイメージであるが、インターンシップは少ない気がする。やはり専門学校であるとインターンシップで入れるのは難しいのだろうか？レコード会社の大手はインターシップを現在も積極的にやっているイメージがある。 ・スマートフォンでも PC でも重要なのは学生自身が一番良いと思う環境において授業を受けられることである。 ・Google 認定試験というものもあるので、教職員向けに参考にして頂きたい。	4

基準7. 学生の募集と受入れ

コメント	評価
・学生募集には「TOHO 会」の活用を、また、各校独自の OB ニュースなどの交信情報を考えてほしい。 ・学納金に関してはコロナ渦の中、上期／下期の支払期日の延長を設ける学校が多くなっている。本校(高校)に関しても企業の夏／冬での賞与支給日に対応した柔軟な対応をした。そのような形での保護者への歩み寄りの姿勢も大切である。 ・学校案内／スクールガイド等、WITH コロナ時代において、手で触る紙ベースでのカラーで立派なパンフレットは不要である。いまの時代、あまり重くないデータでの WEB ダウンロード形式に切り替えるべきである。紙媒体資料にかかるコストを、学生の必要機材の導入に回して頂きたい。 ・高校側は「難関大学に何人、合格させたのか」をアピールしている。そしてほとんどの教員は大学卒であり、専門学校に通ったことがない。その状況で専門学校に理解をといっても難しい。「進路が決まっていない生徒さんに本校を紹介してください」と言われる学校は多いが、意味のない売り込みである。募集担当者は何を伝えるべきか、「教員」「保護者」「高校生(男女別)」とマニュアルを作成するぐらいに学校の強み、売り込み方を研究することが大切だと思われる。そのためには他校との相違点、大学との相違点を明確に区分し、それをアピールしていただいた方がよろしいかと思う。ガイダンスやイベント参加に数打てばではなく、質で勝負することである。 ・パンフレットに関して、昨今の「SDGs」、「スマホ世代」となって来ている中で、重いものを持ちたがらない若者が多い。スマホ等を利用して常時、見やすくするというアクションに切り替えても良いのではないだろうか。 ・全部、スマホで見れるため、本校(高校)の進路指導室にはパンフレットは一切置いていない。また最近では iPad 等で動画を用いて説明される学校がある。また生徒はホームページよりも Instagram を見ているケースが多い。 ・他校との差別化の部分の PR が必要である。	4

基準8. 財務

コメント	評価
・特になし	4

基準9. 法令等の順守

コメント	評価
・自己評価、学校関係者評価の体制もしっかり構築されており、適正な学校運営をされていると思われる。	4

基準10. 社会貢献・地域貢献

コメント	評価
・是非、ボランティア部を創設して地域に貢献してほしい。(Tシャツ・ジャンパー、単位化などのギブアウェイ) ・ホームページでの教育内容の多言語展開はなされているので、それを活かして、実際の活動へ分かりやすくつなげて欲しい。特に地域施設への展開は重要で、学生のスキルアップは元より、「ボランティア活動」や「エンターテインメント活動」をする事で、社会貢献の意義を肌で感じて頂きたい。 ・基準7でも記載したが、社会貢献の意義からも、SDGs 貢献の意義からも立派な紙媒体の冊子作成はやめて頂きたい。エンターテインメントに適用する人材を送出する学校であるので、ホームページでの、より魅力ある展開(アプローチ)で学生の意欲を掻き立てる様な物に変えて行って欲しい。現役／卒業生の方々にチームに入ってもらって、作り上げていくという方法もある。 ・高校は文化祭の時に、学校にあるスペックの低い機材か、近隣のスタジオ等に費用を払って実施している。ボランティアとして高校や中学などの学校行事の手伝いをする事は学生の実習となり、それが学生募集につながるのではないだろうか。また老人ホームでも音楽は求められている。ボランティアのあっせん団体として東京都福祉協議会がコネクションを持っているので、連携すればいくらでも機会を持つことが出来る。 ・入学後、ある程度経過した学生に対して、自分にとってこの学園においてどのようなボランティア、地域貢献を行った方が良いのかということを考えさせることも必要かと思う。 ・対外的な周りの地域だけを限定するのではなく、もっと違うアイディアがあるかも知れないということを考えても良いのではないだろうか。 ・東京都福祉協議会と連携し、学校で取り組み可能な事例を提示することで、様々な場所にリンクしてもらい出来る。 ・学生にはこのようなボランティアがあるよと言ってもなかなか参加しないので、ある程度、教職員側からの後押しが必要かも知れない。	4

Ⅲ. 所感

コメント

・コロナ渦の中、諸々の学校活動の継続は苦勞が多いのではないだろうか。以前のノーマル時代／コロナ渦の時代／これからのWITHコロナの時代では、学生／保護者の求める学校への理想像は確実に異なる。タイムリーに対応し、学校の魅力を存分にアピールする事、そしてその中身のレベル次第で、今後は左右される。我々も知恵は絞って行きたいと思っているので引き続きの健全な学校経営をお願いしたい。

・女性進出が決して多くない業界かと思われるが、その中でも昔よりは働きやすくなってきたかと思う。

技術職を目指して上京したが、私を含め、多くの友人はほとんどPAを離れてしまった。待遇、将来が見えない等の理由が多かったように思う。

最初はがむしゃらに働けると思うが、学生時代から将来設計をもっとしっかり持っておけば良かったと思うこともあった。そんなことは学校では教えてくれないと思うが、女性ケアではないが、女性の社会進出について回る問題の現実をもっと教えてあげて欲しいと思った。

以上